

—A氏コレクションより—

駒井哲郎版画展



1959 | 果実の受胎

『駒井哲郎展』に寄せて。

駒井先生が亡くなる前の4年間、私は学生として、同じ上野の杜の中で、制作と勉学に時を過ごしていました。版画の研究室はまだ立ち上がって間もない頃だったように記憶しています。絵画棟には、仮住まいの事務局も同居し、現在の中央棟は空き地で石彫の学生がノミをふるっていました。当時は、日本を代表する作家が芸大を支えており、油彩には、まだ小磯先生もいらっしゃったように思います。その中で駒井先生はお若かったです、すでに日本の銅版画の世界をひっぱっておられ、私は直接お話することはありませんでしたが、先生の作品は、塙谷雄高の本に使われたものを含めて、よく

見ておりましたし、又、それに学ばせてもいただきました。顔料の黒とは違うその深い色合いと、繊細なディテールの表現を見て、又、颯爽とした先生の姿を、共にあこがれの眼で見ていた時もあったように思います。今回、駒井哲郎展として、先生の作品に改めて会える機会をいただいて、コレクションを提供していただいたA氏に、心より感謝致しております。表現者としての真摯な姿勢と、透徹した視線が持っている不思議な暖かさを、あらためて私の中に刻みつけることができればと思います。

E&C ギャラリー代表 宮崎光二

2009.6.27 [土] → 7.20 [月] 12:00 - 19:00

会場：E&C ギャラリー（福井市中央 1-20-25-3F）
休廊日：月曜日、火曜日（7.20 [月・祝] は開廊）

入場無料



第3回企画展

駒井哲郎版画展 - A氏コレクションより -

E&C Gallery Presents a Precious Collection of Tetsuro KOMAI's Master Prints

「時代に先駆け、今も生きる駒井哲郎」

銅版画の詩人と謳われた画家の初期の名作[孤独な鳥]から代表作[からんどりえ]などの21点による駒井哲郎展が開催されると聞き、再び現代美術の神話が福井から復活するのではないかと予感に包まれている。北荘画会を結成した土岡秀太郎は昭和初年に福井駅前にアルト会館をつくり、多くの作家を招き展覧会や講演会を開いた。彼らの前衛運動は日本の美術史に燦然と輝く記念碑である。創る側と受容・享受する側との相互作用がなければ豊かな美術文化は育たない。土岡より二周り下の駒井は15歳から東京芸大の初めての版画専任教授として56歳の若さで亡くなるまで銅版画のパイオニアとして創作と教育、そして版画の普及に生涯を捧げた。今でこそ海外で活躍するアーティストは珍しくないが、60年前の日本は敗戦で国土は廃墟と化し人々は打ちひしがれていた。そのとき湯川秀樹のノーベル賞と水泳の古橋広之進の世界記録が人々を勇気づけたことはよく知られている。当時まだオリンピックには復帰できなかったが、1951年の第1回サンパウロ・ビエンナーレに駒井は木版の棟方志功らと出品し、コロニー賞受賞という快挙を成し遂げ、国際社会に日本人が進出するきっかけをつくった。武力ではなく文化の力が世界の扉を開いた。瀧口修造が顧問格の[実験工房]に山口勝弘、大辻清司、武満徹、湯浅譲二らと参加し、美術と映像、音楽、文学が交差するインターメディア作品を制作したのが1953年である。いかに時代に先駆けていたことか。現代美術の歴史は志水楠男の南画廊を抜きには語れないが、1956年その伝説の画廊の開廊記念展は駒井哲郎展だった。銅版画の小さな世界にこめた駒井の夢と幻想は今でも多くの人々に影響を与えている。来年は生誕90周年である。

綿貫不二夫



1950 | 小さな魚



1960 | Septembre 調理場 (詩画集「からんどりえ」より)

駒井 哲郎 (こまい・てつろう 1920-1976)

- 1920年 東京都生まれ
- 1935年 西田武雄主宰「日本エッチング研究所」にて銅版画技法を学ぶ
- 1938年 慶応義塾普通部卒業
- 1942年 東京美術学校西洋画科入学
- 1942年 東京美術学校西洋画科卒業
- 1947年 恩地孝四郎主宰の「一本会」の同人になる
- 1951年 第一回サンパウロビエンナーレでコロニー賞受賞
- 1953年 資生堂ギャラリーで初の個展を開催
関野準一郎、浜口陽三らと日本銅版画協会結成
- 1954年 パリに留学し銅版画を学ぶ(～55年)
- 1957年 第一回東京国際版画ビエンナーレ出品(以降第四回まで毎回出品)
- 1961年 愛知県立美術館で「駒井哲郎作品展」開催
- 1972年 東京芸術大学教授就任
- 1976年 死去
- 1977年 池田20世紀美術館にて「駒井遺作展」開催
- 1991年 資生堂ギャラリーにて「没後15年 銅版画の詩人 駒井哲郎回顧展」開催
- 2000年 世田谷美術館にて「駒井哲郎展 福原コレクション」開催

関連イベント

■ オープニングレセプション

日時：6月27日(土) 17:00-19:00

■ ギャラリートーク

日時：7月12日(日) 15:00-16:30

ゲスト：綿貫不二夫氏(ギャラリー「ときの忘れもの」)

参加費：一般500円、会員無料 | ドリンク付き

※ 要予約(定員30名)

Guest Speaker

綿貫 不二夫 (わたぬき・ふじお)

群馬県出身

毎日新聞社を経て美術関連の展覧会の企画、美術書の編集を手掛ける

1974年 日本初の本格的な版画の版元・現代版画センターを創立

1983年 アンディー・ウォーホル全国展開催

「資生堂ギャラリー七十五年史」富山秀男監修・資生堂刊の調査・編集に携わる

1995年 青山に画廊「ときの忘れもの」を開廊



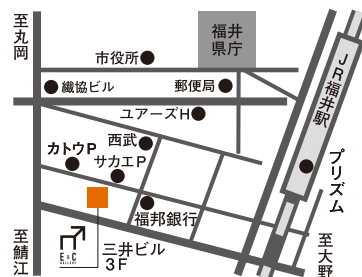
問合せ先：E&C ギャラリー

〒910-0006 福井市中央 1-20-25-3F

Tel/Fax 0776-27-0207

URL www.eandcgallery.com

E-mail info@eandcgallery.com



会場：E&C ギャラリー [入場無料]

回廊時間：12:00-19:00 休廊日：月曜日、火曜日(7月20日[月・祝]は開廊)